

インターネット 動向紹介

2026年3月～2026年6月の
インターネットトピックス

INTERNET TRENDS introduction
2026.03→2026.06

IP アドレストピック

IPアドレスに関する動向として、2026年2月4日(水)～2月12日(木)に開催されたAPNIC 61の様子と、同会議で行われたアドレスポリシー関連の議論について報告します。

また同会議に関連して、2026年5月15日(金)に開催されたTDNOG13.0 Meetingでの発表も行いました。

APNIC 61カンファレンス報告全体概要およびアドレスポリシー関連報告

APRICOT 2026/APNIC 61カンファレンス(以下、APRICOT 2026/APNIC 61)が2026年2月4日(水)～2月12日(木)にかけて、インドネシア・ジャカルタにて開催されました。本稿では、同会議の開催概要と、アドレスポリシーに関する議論の動向についてご紹介いたします。

● APRICOT 2026/APNIC 61開催概要

会期9日間のうち、前半の2月4日(水)～7日(土)はIPv6、BGP、サイバーセキュリティなど各種ワークショップが行われ、後半の2月9日(月)～12日(木)は議論の場となるカンファレンスウィークが開催されました。



APRICOT 2026会場の様子

カンファレンスウィークでは、アドレスポリシーやルーティングセキュリティ、NIR(National Internet Registry; 国別インターネットレジストリ)、ソーシャルな課題など特定分野に関心を持つ人たちが議論を行う「SIG(Special Interest Group)」をはじめ、カンファレンスの総括および全体報告が行われる「AGM(APNIC General Meeting)」や、各国NOGや国際組織のレポート、ピアリングフォーラム、ネットワーク技術に関する講演等が開催されました。

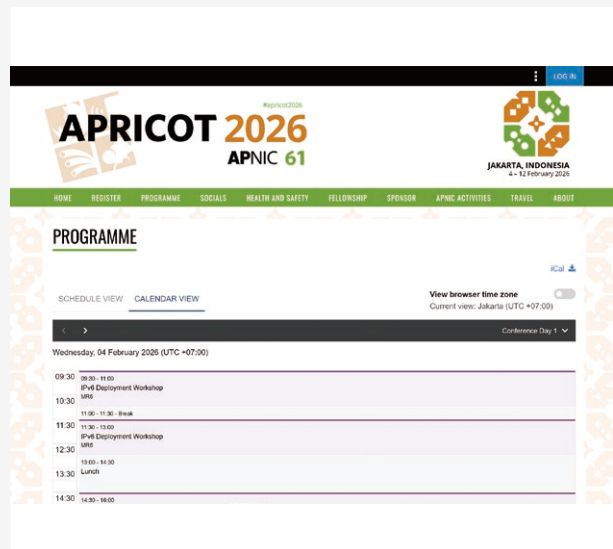
主催者報告によると、今回のAPRICOT 2026/APNIC 61は世界54

の国と地域から、1,044名が参加しました。前年のAPRICOT 2025/APNIC 59の参加者878人からさらに100人以上増え、盛況な回となりました。

会期中のセッションについては、動画、資料および発言録がWebで公開されています。もし興味のある内容がありましたら、ぜひご確認ください。

APRICOT 2026/APNIC 61プログラム

<https://2026.apricot.net/programme/programme#/>



● APNIC EC選挙結果報告

APNIC理事会は、会員により選出されたExecutive Council(EC、理事)7名およびAPNIC事務局長の計8名で構成されています。APRICOT 2026/APNIC 61ではEC選挙が行われ、最終日のAGMでその結果が公開されました。投票は、事前にWebサイト上で立候補者のプロフィールが公開され、投票手続きはすべてオンラインで行われています。今回は改選議席3議席に対して、4名(うち現職3名)が立候補し、現職の3名が再選されることとなりました。

IP Address — Topic

2026. 5. 15
山形県 / 山形大学

TDNOG13.0 Meeting

オンサイト
オンライン

2026. 2. 4 - 2. 12
インドネシア / ジャカルタ

APNIC 61

オンサイト
オンライン

APNIC理事会の新体制は、下記の通りとなります。

- ★・Achie Atienza氏 (Globe Telecom / フィリピン)
- ・Anlei Hu氏 (CNNIC / 中国)
- ・Jia Rong Low氏 (APNIC事務局長 / シンガポール)
- ★・Kam Sze Yeung氏 (Akamai Technologies / 香港)
- ・Kenny Huang氏 (TWNIC / 台湾)
- ・松崎吉伸氏 (IIJ / 日本)
- ・Roopinder Singh Perhar氏 (Conjoinix Total Solutions Pvt Ltd. / インド)
- ★・Sumon Ahmed Sabir氏 (Fiber@Home Limited / バングラデシュ)

★が今回選出された3名

今回選出された3名は、2年後の2028年3月までECとして任期を務めることになります。

● APNIC 定款改定投票結果

今回のAPRICOT 2026 / APNIC 61では、APNIC 58からフィードバック募集を行ってきた、ECの任期および連続任期制限に関する提案に関して投票を行いました。本件の可決には、有効投票のうち2 / 3の賛成が必要でしたが可決に至りました。

決議案1: EC任期を2年→3年に変更する。連続任期を最大3期9年とする。
(結果: 賛成 1,724 / 反対 365 / 棄権 23 ⇒ 可決)

決議案2: 用語統一や文書番号付与など、文書表記の修正。
(結果: 賛成 1,784 / 反対 175 / 棄権 153 ⇒ 可決)

また、この変更に合わせて2027年以降のEC選挙では変則的な任期設定が行われます。

次回 (2027年): 4議席改選、得票数上位3名は3年任期、4位は2年任期
次々回 (2028年): 3議席改選、得票数上位2名は3年任期、3位は1年任期
3回目 (2029年): 2議席改選、3年任期
以降は3議席、2議席、2議席で改選していきます。

その他詳細については下記をご参照ください。

Proposed APNIC By-law Reform 2026

<https://www.apnic.net/about-apnic/organization/structure/proposed-by-law-reform-2026>



● オープンポリシーミーティング(OPM、ポリシーSIG)での議論とその結果

今回のAPRICOT 2026 / APNIC 61では、2件のポリシー提案について議論が行われました。

コンセンサス形成の意思表示は、現地参加者は参加者の挙手で行います。今回からの変更として、オンライン参加者はこれまでConferと呼ばれるリアルタイムに意思表明を視覚化するツールが使用されてきましたが、今回から過去のCOVID-19流行によるオンライン開催時に使用されていたZoom Pollのみに変更となりました。明確な意図は示されていませんが、現地参加者はConferではなく、挙手で投票に参加してもらい、議論への参加を促す意図での変更と推測されます。これら挙手による意思確認、およびZoom Pollの結果を踏まえて、ポリシーSIGチェアは総合的に判断し、ポリシー提案がコンセンサスを得ているかどうかを判断します。

以下では、2件のポリシー提案の議論結果についてご紹介します。提案の内容や事前情報に関しては、JPNIC Blogにまとめていますので併せてご確認ください。また、IP-USERSメーリングリストでは、カンファレンス開始前にJPOPF運営チームによって、日本語での提案紹介および意見募集が行われています。今後の動向把握には、IP-USERSメーリングリストの登録をぜひお願いします。

APNIC 61でのIPアドレス・
AS番号分配ポリシーに関する提案のご紹介
<https://blog.nic.ad.jp/2026/11510/>



IP-USERSメーリングリスト
<https://www.nic.ad.jp/ja/profile/ml/mailman.html#join-ip-users>



prop-164: 「IPv6最小割り振りサイズの変更」

提 案 者	Christopher Hawker氏, Luke Thompson氏	https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-164/
概 要	IPv6アドレスの最小割り振りサイズを、現在の/32から/36に変更する。	

前回のAPNIC 60から継続議論となっていた提案です。

IPv6アドレスの最小割り振りサイズである/32は非常に大きく、すべて

の組織がこれほど大きなサイズを必要としているわけではありません。仮に/36で必要十分であるとして分配を受けるとなると、現在は「割り当て」での分配しか受けられないため、対象アドレスの再割り当ては不

可能になり、WHOISへの登録ができません。提案者はこのような不正確性をなくしたいとして提案したと主張しています。

一方で、もし「割り当て」を行いたいのなら、/32は大きすぎたとしても「割り振り」として分配を受ければ可能です。これで提案者の主張する「不正確性」は解消されます。結局のところ、提案者がこだわるのは、割り振りサイズが効率的ではないので縮小したいという考え方であると見受けられます。

会場での議論では、やや本題とずれた金銭的メリットとして、/36の割り振りが可能となればその分member fee(維持料)が削減できるということにフォーカスが当たりました。一方で、料金に関する事項はポリ

シーの範囲外ですので、OPMの場で議論するべきものではないと結論付けられています。その他のコメントでは、IPv4アドレスの時代にはアドレスの節約性が重視されてきたが、IPv6は膨大な数であるため節約性よりも経路集成をすべきであるとの声や、当該変更がフィルタリングに影響を及ぼす可能性があるのではないかと懸念する声などが挙がっていました。なお、フィルタリングに関しては、問題ないだろうとの見方もその場で確認されています。

本提案は提案者の希望により、コンセンサス確認を行わず、議論のみで終了することになりました。提案者はこの場で受けたコメントを受け止め、引き続きMLで議論を行い、次回のOPMでの提案を検討するとしています。

prop-168:「IPv4アドレスの最大割り振りサイズ拡張」

提 案 者	Christopher Hawker氏 https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-168/
概 要	IPv4アドレスの最大割り振りサイズを/23から/22へ拡張する。 ・新規申請者に限らず、既存の契約組織でも総IPv4アドレス数が/22以下の場合には追加申請を可能とする。なお、移転でアドレスを放出した組織は追加申請の対象外となる。追加割り振りを受けた組織はすべての割り振りアドレスを対象に、追加割り振り日から5年間を移転不可とする。 ・利用可能なプールが枯渇した際に、/16をIPv6移行用としてプールする。本プールからの割り振りは移転を禁止し、不要になった場合にはAPNICへ返却するものとする。
結 果	コンセンサスに至らず

現在、IPv4アドレスは返却済みアドレスを再利用するプールから分配されています。このプールは、現在の分配ペースが維持された場合、2035年前後に完全枯渇すると予測されています。提案者は、レジストリがこのアドレスを長期間ストックし続けるよりも、既存のニーズに応じて分配した方が有意義であり、その結果としてアドレス移転やリースの減少につながると主張しています。

本提案に関して、APNIC事務局からは影響予測として、もし本提案が実装された場合は現在のプールは数か月以内に完全枯渇を迎えることになることと示されていました。

MLでの議論の段階で、レジストリでのストックをできるだけ引き延ばすよりも、移転やリースといったレジストリを起点としないアドレス流通を減らしたいという思想には、一定の賛成が示されていました。一方で現在の割り振りサイズまで縮小してでもIPv4アドレスの分配を継続してきたのは、後発となるスタートアップがIPv6導入のためのIPv4を確保できるようにするためであります。会場からのコメントでは「現在の/23でスタートアップには十分なサイズなので継続した方が良い」、「レジストリ在庫の早期完全枯渇は結果的にIPv6促進の妨げになる」といったコメントが挙がっていました。また、移転不可とする条件を課していますが、これがIPv4アドレスの流動性を下げ、望ましくないリースへの依存が高まるのではと危惧する声も挙がっていました。

コンセンサス確認では一定の賛成も見受けられましたが、中立・反対が多数となり、コンセンサスには至りませんでした。

● 次回以降のAPNICカンファレンスについて

次回以降のカンファレンス開催地について、以下のように予定している

ことが発表されています。

- ・APNIC 62：2026年9月3日(木)～10日(木)インド・ムンバイ
- ・APRICOT 2027/APNIC 63：2027年2月28日(日)～3月4日(木)香港
- ・APNIC 64：2027年9月3日(金)～10日(金)モンゴル・ウランバートル

インドでのAPNICカンファレンス開催はAPNIC 33(2012年、ニューデリー)以来となります。

APNICカンファレンスは、APNICメンバー以外の方にも広く門戸を開いています。ポリシー動向はもちろん、世界での最新技術動向やトレンドトピック、国際連携・国際交流に関心をお持ちの方は、ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。英語でのカンファレンスですが、リアルタイム字幕等、初心者や非ネイティブ話者にも配慮されています。JPNIC BlogではAPNIC 61で議論されたトピック・会場の様子について、写真と併せてご紹介しています。ぜひご覧ください。

APRICOT 2026/APNIC 61現地フォトレポート
<https://blog.nic.ad.jp/2026/11572/>



JPNICでは学生・若手社会人を対象とした国際会議参加支援プログラムも行っております。国際会議への参加経験を経てコミュニティへ貢献できる人材育成を行っておりますので、ご興味のある方はぜひ下記ページをご参照いただき、ご検討いただければと存じます。

国際会議参加支援プログラム
<https://www.nic.ad.jp/ja/intl/fellowship-program/>



皆様とAPNICカンファレンスの場でお会いできることを、楽しみにしております。

TDNOG13.0 Meetingに参加しました～地域NOGで感じた学びとつながり～



TDNOG13.0 Meetingの会場風景

2026年5月15日(金)、山形県山形市の山形大学 小白川キャンパスで開催された「TDNOG13.0 Meeting」で、JPNICとして登壇しました。「APRICOT 2026参加報告と、地域NOGから考える国際コミュニティとのつながり」と題した発表と、各地域NOGアップデートでは、職員が運営に参画しているChuNOGミーティングについて報告を行いました。

● 三つのテーマ

発表では、インドネシア・ジャカルタで開催されたAPRICOT 2026で得た知見のうち、主に三つのテーマに焦点を当てて紹介しました。

一つ目は、世界のNOGについてです。TDNOGは日本における地域NOGの一つですが、世界各地にもさまざまなNOGが存在し、それぞれの地域やコミュニティに応じた活動が行われています。APRICOTで得られた世界のNOGに関する動向をもとに、各NOGがどのように運営され、どのような課題や取り組みを持っているのかを共有しました。

二つ目は、アドレスポリシーについてです。アドレスポリシーは、日々のネットワーク運用の中で常に意識するテーマではないかもしれませんが、しかし、IPアドレスの割り振り条件や利用のあり方に関わるものであり、通信事業者やネットワーク運用者にとって無関係ではいられない重要なテーマです。APRICOTで議論された最新トピックを取り上げ、その背景や注目点を紹介しました。

三つ目は、海外カンファレンスへの参加についてです。APRICOTをはじめとする国際会議への参加は、関心はあってもハードルが高く感じられることがあります。発表では、参加への第一歩を踏み出すにあたって活用できる施策や支援の例を共有した上で、今後どのような後押しがあれば参加しやすくなるのか、会場の皆さんと意見交換を行いました。

地域NOGは、地域の技術者が顔の見える関係を築く場であると同時に、国内外のコミュニティへつながっていく入り口にもなり得ると感じて

います。今回の発表が、国際コミュニティへの関心を持つきっかけになれば幸いです。

● 印象に残った発表

今回特に印象に残った発表の一つが、IIJ 佐々木さんによる「ISPエンジニアが高校生にIPネットワーク教えてみた ～OSPF編～」です。

発表では、高校や高専などから教育支援の依頼を受けることがあるという背景が紹介されました。IT関連の講座は増えている一方で、プログラミングは教えられても、ネットワークをどのように教えれば良いか悩む声があるとのことでした。

そこで紹介されたのが、OSPFの仕組みをゲーム形式で学ぶ取り組みです。参加者がそれぞれルータ役となり、紙に書かれたリンク情報、例えばコストや接続先などを交換しながら、ネットワーク全体の構成を考えていきます。

ルータの構成は東北地方の地名で表現され、コストも「行きやすさ」として捉えられるよう工夫されていました。単に用語や計算方法を説明するのではなく、実際に情報をやり取りし、その情報をもとに参加者同士で構成を議論し、絵に描いていくという内容です。

ネットワークの仕組みを理解するには、通信モデルを頭で覚えるだけでなく、実際に「情報がどう伝わり、どう判断されるのか」を体感することが大切だと感じました。また、仕組みそのものを分かりやすく伝えるための工夫は、学生向けに限らず、社会人向けの研修やコミュニティ活動にも活かせるものだと思います。

発表の中では、今後、社会人向けのコンテンツを作ることになったという話もあり、1日集合研修のような形態も検討されているとのことでした。ネットワーク技術をどのように次の世代へ伝えていくかという観点でも、大変興味深い発表でした。

技術トピック

2026年6月3日(水)、JPNICはInternet Society日本支部(ISOC-JP)との共催、WIDEプロジェクトの後援により、「IETF情報交換会-IETF126に向けて-」を開催しました。IETF情報交換会は、過去に開催されてきた「IETF報告会」に代わって、複数回のIETF会合をまたいで見える技術動向やホットピックの背景部分に注目した情報交換の会合です。

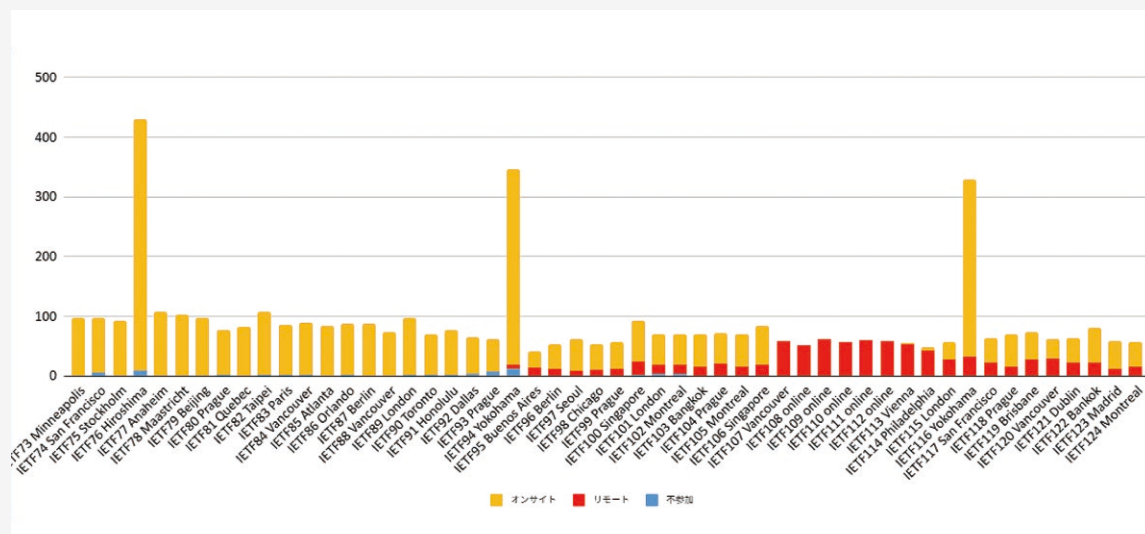
今回のIETF情報交換会は、JPNIC会議室とオンラインのハイブリッド開催を予定していましたが、台風の影響によりオンライン開催へ変更されました。ただ結果的に、多くの方々ご参加され、盛況となりました。今回もIETF参加者を中心に、最新の技術動向や今後注目されるテーマ

について情報共有・意見交換が行われました。

IETF (Internet Engineering Task Force) は、インターネットで利用されるプロトコルや技術仕様を議論・標準化する国際的なコミュニティです。JPNICでは、国際的な技術動向を国内における事業や研究・開発・運用にお役立ていただくべく、IETF会合への参加についてだけでなく、国内で国際動向を共有する場づくりに取り組んでいます。

今回は、IETF125(中国・深圳)で議論された話題を振り返るとともに、7月開催のIETF126(オーストリア・ウィーン)に向けて注目されるテーマについて情報交換を行いました。

「IETF情報交換会 - IETF126に向けて-」を開催



IETF参加者の推移

● IETFへの関わり方のステップを考える

はじめに、司会進行を担当した筆者から、今回のIETF情報交換会で登壇者に、ご発表後に何うテーマを紹介しました。テーマは「IETFへの関わり方のステップを考える」です。昨今、インターネット分野において人材確保や育成の話題がある中、IETFへの関わり方についてどう捉えるのか、これから関わる人はどのような「ステップ」を想定していけばいいのかについて整理しました。

こうした段階的なステップを支えるものとして、各段階で求められる技能や姿勢についても整理を行いました(下表(1)参照)。「技術的な基盤」「議論・調整力」「実践力」「マインド」という四つの技能に加え、

単純には分類できない、異分野間の橋渡しや継続的な参加と意思疎通といった複合的な能力についても触れています。例えば「技術的な基盤」にはRFC読解やプロトコル把握、実装能力(Running Code)が挙げられる一方、「マインド」にはオープン志向や共有文化、国際協働といった姿勢面の要素が含まれます。また、分類しきれない要素としては、正解を出すことよりも議論に耐える説明力や合意形成力、異分野間の橋渡しとなる専門知識の翻訳・再構成力なども挙げられました。先の「ステップ」(右表(2)参照)と合わせて見ることで、どの段階でどのような技能が求められるのかを俯瞰できるものとなっています。

ご参加の方の多くは、ご自身の活動がありながら、IETFにおける関与の仕方について道なき道を切り開くようなご経験をされている中、IETFに

おける活動の全体像や区分を捉えたり、立ち位置のヒントを得たりすることがねらいです。当日は、これらの背景となる課題意識を共有した上でお考えを伺うことができました。

IETFの関わり方のステップを考える(1)

○ 技能という見方

技術的な基盤	RFC読解、プロトコル把握、実装能力(Running Code)
議論・調整力	レビュー、説明、合意形成、ネゴシエーション
実践力	運用の分析、実装フィードバック、OSS・相互接続／検証
マインド	オープン志向・共有文化・国際協働

○ 分類できないが…

正解を出すよりも議論に耐える説明力・合意形成力

異分野間の橋渡し(専門知識の翻訳・再構成)

英語は前提・完璧さよりも継続的な参加と意思疎通

技術・運用・国際性を横断する複合的な能力

IETFの関わり方のステップを考える(2)

○ ステップ

【入口】
RFC読解・議論の理解

【活動】
レビュー・発言・
非公式議論への関与

【活動】
実装・運用・フィードバック

【活動】
ドラフト執筆・合意形成

● 技術動向

登壇者の方々の注目されている最新動向について、それぞれの専門分野の視点から紹介されました。

◎ Web技術: AIエージェントと認証／認可

ISOC-JP インターネット標準化推進委員会で活動する後藤ひろゆき氏からは、「猫も杓子もIETFもAI」という言葉の通り、IETFでもAI関連の提案が急増している様子が共有されました。特に注目されるのは、AIエージェントによる決済や予約を可能にするための認証や認可の枠組みや、Webサイト側がAIの学習を制御するための仕組みです。

Web Bot Authと呼ばれる、Webサービス等にアクセスしてくるボットを識別・検証する仕組みの提案など、AI時代における"信頼性"を担保する技術の議論が活発であることが紹介されました。

◎ ルーティング・セキュリティ

JPNICの大谷からは、IETF125のセッション「Technology Deep Dive」で取り上げられたルーティング・セキュリティが紹介されました。BGP (Border Gateway Protocol) は、隣接ルータから伝わる情報——経路情報という、いわば"噂"に基づいてインターネットの経路制御が成り立っています。

現在は、RPKIを用いた経路のオリジン検証(ROV)など、噂のような"完璧ではないもの"に対する現時点で実現可能な不正への対策を、段階的に導入するというアプローチが主流となっています。これは、30年前から始まって、新しい世代へと引き継がれる「多世代プロジェクト」と言えるという中長期的なお話が、Technology Deep Diveの講演にあったそうです。

◎ 暗号技術とIETF Hackathon

IETF Hackathonに継続的に参加されている酒見由美氏から、暗号分野の技術動向と、Hackathonの様子が紹介されました。暗号分野では、耐量子暗号(PQC)の導入が前提となりつつある中で、ゼロ知識証明(ZK: Zero-Knowledge Proof)、完全準同型暗号(FHE: Fully Homomorphic Encryption)、AIとエンドツーエンド暗号化(E2EE: End-to-End Encryption)の関係など、新たなテーマへ議論の中心が移っていることが紹介されました。

また、Hackathonについても、標準仕様を実装・検証する場として、多くの開発者が協力しながら実装を進めるIETFならではの文化が紹介されました。

◎ PQCと移行

伊藤忠彦氏からは、耐量子暗号(PQC)の標準化状況と、実際の移行に向けた課題について紹介がありました。暗号アルゴリズムそのものだけでなく、既存システムとの共存や段階的な移行、実運用において考慮すべき点など、今後多くの組織が向き合う課題について議論が行われています。

● ディスカッション

今回のIETF情報交換会では、登壇者の方々に、ご発表の後、あらかじめ候補となるテーマから選んでお話を伺うという形式にしました。注目

されている分野の技術的なお話だけでなく、日頃感じられていることや考えを伺っていくことができました。

テーマの候補と選ばれた方

- I-DやRFCの興味深いものを追いかけることの面白さ(後藤氏)
- 現在のようにIETFに関わることになったきっかけ(大谷・酒見氏・伊藤氏)
- ハッカソンの良さ(酒見氏)
- 人とのつながりの大事さ
- 知っておきたいことやノウハウ、そのためにできること

新しいものが現れる最前線に触れられることのワクワク感や、国際的なトップエンジニアの課題解決の様子が見られるという魅力の他、これまでのIETFに関わるきっかけや実体験について話される中、オンラインながら和やかな雰囲気であったのが印象的でした。

IETF関連の追加情報(1)

○お持ち帰り 追加情報

情報交換会で触れた参考リンクなどをまとめました

● IETF 125

- ・ IETF 125 Hackathon Wiki
<https://wiki.ietf.org/en/meeting/125/hackathon>
- ・ IETF 125 Shenzhen
<https://www.ietf.org/meeting/125/>

● 今後のIETF

- ・ IETF 126: 2026年7月18日～24日 オーストリア・ウィーン
- ・ IETF 127: 2026年11月14日～20日 米国・サンフランシスコ
- ・ IETF 128: 2027年3月6日～12日 (アジア)
- ・ IETF 129: 2027年7月17日～23日 ドイツ・ベルリン
- ・ IETF 130: 2027年11月6日～12日 カナダ・バンクーバー

● 開催概要

IETF関連の追加情報(2)

IETF 情報交換会 - IETF126に向けて -

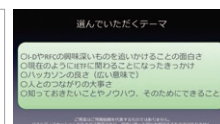
- ・ 日時 2026年6月3日(水) 16:30～18:30
- ・ 会場 台風6号の影響により、オンライン開催のみとなりました。
- ・ 主催 Internet Society日本支部 (ISOC-JP)、
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)
- ・ 後援 WIDEプロジェクト(WIDE)

プログラム

時刻 プログラム/講演者(敬称略)

16:30 オープニング/ご挨拶/会場説明

16:35 進行と背景 - IETFの関わり方 司会: 木村 泰司(JPNIC)



資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/ietf-report/20260603/ietf126-1.pdf>



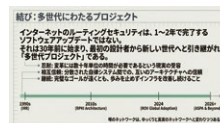
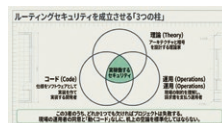
16:40 テーマ: Web技術動向とIETF ごとうひろゆき

資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/ietf-report/20260603/ietf126-2.pdf>



17:05 テーマ: ルーティング・セキュリティ - Technology Deepdiveより - 大谷 亘(JPNIC)



資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/ietf-report/20260603/ietf126-3.pdf>



17:35 テーマ: 暗号技術とIETFハッカソン 酒見 由美(GMOコネク)

資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/ietf-report/20260603/ietf126-4.pdf>



18:05 テーマ: PQCと移行 伊藤 忠彦(セコムIS研究所)

18:30 クロージング/ご挨拶/お知らせ

IETF 情報交換会 - IETF126に向けて -

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/ietf-report/20260603/>



● IETF126に向けて

このニュースレターが発行されるときには既に終了しているかと思いますが、次回のIETF126は、2026年7月18日(土)から24日(金)にかけて、オーストリア・ウィーンで開催されます。JPNICでも現地参加を予定しており、インターネット技術の最新動向や標準化の議論を継続して調査し、お役立ていただけるように情報発信をしていきます。

また、IETF情報交換会も、IETF会合への参加に関わらず、異なる分野の技術者が共通のテーマで議論できたり、IETF参加経験の共有が次の参加者へのきっかけになるような場として、今後も継続して開催していきます。皆様からのご意見やコメントをお待ちしております。

2026.3.7ー3.12
インド/ムンバイ
第85回ICANN会議オンサイト
オンライン

本稿では、ICANN85のセッションの中から筆者がアドレス支持組織(ASO)のアドレス評議会(AC)(ASO AC)として主に参加した、ICP-2(新地域インターネットレジストリ設立認定要件)の改定関連作

業や、CCG RoR(Cross Community Group Review of Reviews)に関する話題を中心に紹介します。

第85回ICANNムンバイ会議報告

ICANN85 Mumbai Community Forum

Welcome to ICANN85 Community Forum in Mumbai, India. The Community Forum is the first meeting in the three-meeting annual cycle, typically held in February or March. The duration of the Community Forum is six total days, running from Saturday through Thursday.

The Community Forum structure includes time for internal work of the Supporting Organizations and Advisory Committees (SO/ACs), cross-community interaction, and plenary sessions on topics of community-wide interest.

ICANN85 Community Forum will be held in Mumbai, India at the [Jio World Convention Centre](#) from 7 - 12 March 2026.

This will be a hybrid meeting with both in-person and virtual participation.

All sessions will be conducted during regular working hours in Mumbai, India (India Standard Time, IST / UTC+5:30 hours).

Prep Week will be conducted on 23, 24, and 25 February 2026.

ICANN85 Travel Alert Announcement

[REGISTER TODAY!](#)

Hosted by: **nixi** Empowering Netizens in association with **ISPAI**

ICANN85はコミュニティフォーラムと呼ばれる中規模の会合です。

第85回ICANN会議(以下、ICANN85)は2026年3月7日(土)から12日(木)まで、インドのムンバイで開催されました。

事務総長のKurtis Lindqvist氏が閉会後に公開した会議振り返りブログ記事によると、ICANN85には1,500名ほどの現地参加者、700名近くの遠隔参加者を得たとのことで、現地参加者のうち300人以上が初参加だったようです。

毎年3月のICANN会議は、コミュニティフォーラムと呼ばれる中規模のフォーマットです。新gTLDプログラム次回ラウンドに向けた準備が着々と進み、ついに申請開始日が2026年4月30日に決まりました。2012年ラウンドの経験を踏まえ、実施準備は整然と進んでいるように見受けられます。事務局からの実施準備状況報告のセッションが一つ、支持組

織(SO)や諮問委員会(AC)で応募開始に当たる課題を議論するセッションが三つほど見られた他は、既に新gTLDプログラム次回ラウンド以外のさまざまな課題に取り組んでいる印象です。

● オープニングセレモニーのコミュニティエクセレンスアワード授賞

コミュニティフォーラムのオープニングセレモニーでは、毎年ICANNコミュニティエクセレンスアワードの受賞者が発表されます。今年のコミュニティエクセレンスアワードは、Amrita Choudhury氏に授賞されました。Choudhury氏はインド人の市民社会活動家で、長らくICANNコミュニティで活躍し、ICANNではAPRALO(アジア太平洋地域At-Large組織)のチェア、IGFではMAG(マルチステークホルダー諮問グループ)をはじめとする数々の要職をこれまでに務めてきました。筆者もICANN

会議などの機会にお会いしたり一緒にパネルディスカッションに登壇したりしたことなどが何度もありますが、優しい人柄ながら常に理知的な議論をなさる方です。このオープニングセレモニーでは、司会進行を務めたICANN事務局のアジア太平洋地域責任者のSamiran Gupta氏、冒頭で挨拶した理事会議長Tripti Sinha氏、コミュニティエクセレンスアワード選考委員長のRam Mohan氏、そしてChoudhury氏と、インド人、インド系アメリカ人が顔を揃える結果となり、インド開催のICANN会議に花を添える形となりました。

● ASO ACのICP-2改定関連作業

ASO ACは、通常の年でも3月のICANNコミュニティフォーラムで対面の会議を行うようにしていますが、現在はICP-2改定作業でいわば特別進行となっています。コミュニティフォーラムでは、会期の土曜日から木曜日までの6日間、毎日5セッション、合計30セッションが設定可能ですが、このうちの10セッションを改定作業、8セッションを他のステークホルダーのエンゲージメントに充てました。前述のように、オープニングセレモニーや公開理事会など一部のプレナリーセッション以外は、ほとんどASO ACのセッションに費やされた印象になっています。

2024年が明けて本格化した改定作業は、2024年10月に原則案、2025年4月に草案初版、2025年8月に草案第2版を公開し、それぞれ意見聴取を行いました。2025年11月にウルグアイ・モンテビデオのLACNICオフィスに集結して、草案第2版に対して寄せられた意見を分析して課題を分類、最終案の執筆に入れるもの(Editorial)とさらに検討が必要なもの(In Progress)に分けました。今回ICANN85での作業は、このさらに検討が必要な数点に関する集中検討となりました。以下のような項目が、このカテゴリに属しています。

- ・新RIR設立が既存RIRで否決された場合の再検討プロセス
- ・新RIR設立に関する議決に要する既存RIRによる賛成票数
- ・既存RIRの認定取り消しと臨時監査に要する要請票数の要件
- ・緊急代替事業者プロセスの諸要件

また、エンゲージメントセッションではいろいろなSOやACに出向いて、ICP-2改定に関する状況を説明し、質問に答えました。実施した順番に、GAC、パブリック(誰でも参加可能)、ALAC、RSSAC、理事会、ISPCPです。AC議長のHerve Clement氏、副議長のAmy Potter氏とEsteban Lescano氏が各グループにまったく同じ説明をするのですが、それに対する反応はさまざまで、前提知識や背景から説明が必要なところ、プロセスに懐疑的な意見が出るところ、よく改定作業を理解していて建設的な意見と励ましをくれるところと、それぞれの色が出ていたのが印象的でした。また、パブリックセッションでは若い女性の参加者が、原稿を用意した上で、改定プロセス全体を振り返りながら批判的な長文の意見を述べました。それは、いかにもAIで書き出されたもののようには思いません。これには2026年NROのチェアを務めるAPNICの事務局長、Jia-Rong Low氏が、コミュニティプロセスの重要性和困難をとうとうと語って理解を求めました。オープンセッションでは今後、このような

意見表出も少なくないだろうと考えられます。

ASO ACにおけるICP-2改定に関して、パブリックセッションで使用されたスライドを以下に示します。現況にご関心がある方はご覧ください。

RIR Governance Document Version 2 Update (ICP-2 Review Process Update)

https://hosted-files.sched.co/icann85/94/RIR+Gov+Doc+ICANN+85_PublicSession_2_090326++++Read-Only.pdf?_gl=1*6icol6*_gcl_au*MTk2OTg5MTM4LjE3NzU0Njg1MjE*FPAU*MTk2OTg5MTM4LjE3NzU0Njg1MjE



● CCG Review of Reviews も各ステークホルダーに意見聴取

CCG RoR(Cross Community Group Review of Reviews)に関しては、前回ICANN84の報告でもご案内しました。各SO、ACからの代表者によるグループで、ICANNが定款で定めるテーマ別と各組織のレビューを再検討する活動です。CCG RoRはパブリックセッションを木曜に持った他、各SO、ACを回って共同セッションを持ち、意見聴取を行いました。私はASO ACの指名でCCG RoRに参加していながら、ASOのセッションのため他のSO、ACとのセッションには参加できませんでしたが、ASOの共同セッションでは司会のような役回りを仰せつかりました。そもそもASO ACのメンバーはRIRコミュニティで活動しているため、ICANNのプロセスは縁遠いものなのですが、今回共同セッションを持つにあたって、私はCCG RoRの背景として、ICANNのレビューの機構とその再検討の必要性といった背景と、CCG RoRに関する情報をまとめた資料をASO ACメンバー向けに作って備えました。

共同セッションでは、CCG RoRの共同議長の1人であるChris Disspain氏が現況の説明を行いました。CCG RoRは4フェーズで活動が設計されており、前回ICANN84ではCCG設立動機からコミュニティの意見を聴取し、それに従った初期草案をもとに意見聴取するのが今回のICANN85とのことです。今後報告書案を書き進めて、次回ICANN86で意見聴取、その後最終化して各SO、ACの承認を得て、理事会に提出するというスケジュールです。検討内容に関しては、以下の五つの領域に分けられています。

- ・説明責任と透明性(いわゆるATRT)
- ・継続改善プログラム(CIP)の評価
- ・組織構造レビュー
- ・レビューに関するレビュー
- ・オンデマンドレビュー

Disspain氏の説明はこれらを網羅して、必要に応じて背景や例示によって説明を深める形で非常に分かりやすいもので、私自身も理解の整理ができました。

ASOとその母体であるNRO、RIRでは、現在ICP-2改定という大きな事業を進めているところで、ICANNから試行を要請されたCIPに関しても、ICP-2改定作業が完了するまでの間これに取り組まないことを明確にしています。それに加え、本項冒頭で述べたようにASOのICANNプロセスに対する関与度の低さから、レビュー作業の負担過多を懸念するコメントがASO側から出ることもありました。これに関してDisspain氏からは、自身がccNSOに長年関与している立場から、ccTLD運営者の集まりとしてのccNSOもICANNからの距離があることに言及しました。GNSOは紛れもなくICANNが主戦場とも言えるグループで、At-LargeコミュニティはICANNプロセスに自発的に関与しているグループながら、それ以外は必ずしもICANNが主戦場と言えない、ということは、ASOとしてのICANNの諸検討への参画を考える上で、新たな発見となりました。

CCG RoRの活動に参加する身としては、未だ言葉の定義や枠組みの捉え方など、基本的な議論が多いので、今後の検討も多難だと思うところですが、真摯に取り組んでいきたいと思います。

● インターネット堅牢性に関するプレナリーセッション

この他に参加することができた、印象深いセッションを一つ紹介します。

オープニングセレモニーの直後に持たれたのが、“From Stability to Survivability: ICANN's Role in the Future Of Internet Resilience”（安定性から生き残りへ：インターネット堅牢性の未来におけるICANNの役割）というプレナリーセッションです。インターネット堅牢性に関するプロジェクトは、米国マルコーニソサエティが数年前から展開しており、IGF 2025でもセッションが持たれていました。インターネットは元々、ネットワーク自体は単純に作って、それにつながるエンドシステムがネットワークで起こる遅延やパケットロスを補正するという思想で作られています。それが情報社会のインフラとなっている今、インターネットというものの堅牢性を確保するためにどうするべきなのか、という問題に関する探究プロジェクトです。

The Marconi Society Internet Resilience Institute
<https://marconisociety.org/internet-resilience-institute/>



これがICANN会議に持ち込まれたのはとても印象的ですが、DNSの堅牢性はインターネットが動き続ける上での前提条件であるのと同時に、ICANNの責務に含まれています。このセッションでは、電力供給やクラウド事業者におけるコンピューティングリソースやサービスの提供に対する依存という問題の他に、DNSの堅牢性に関する議論にもおよびました。DNS堅牢性に関しては、2025年9月にSSACがSAC132 “The Domain Name System Runs on Free and Open Source Software (FOSS)”（ドメインネームシステムは無料のオープンソースソフトウェア(FOSS)で機能している）という勧告を公開しています。そこでは、あらゆるシステム運用者で共有されているBINDなどのDNSソフトウェアが、契約に基づかない利用のために利用者の全体像がつかめないこと、一つ

の脆弱性が広範なシステムに影響することなど、問題を引き起こすことを指摘しています。ICANNにおけるインターネット堅牢性の議論として、DNSの問題を提起しながらも、インターネットを動かすために不可欠な電力供給やクラウドシステムも含めた連関で捉える必要がある、といった論調で議論は進み、大局観のあるセッションでした。

From Stability to Survivability:

ICANN's Role in the Future Of Internet Resilience

<https://icann85.sched.com/event/2Gwkl/from-stability-to-survivability-icanns-role-in-the-future-of-internet-resilience>



ICANN85の内容、スケジュール、資料、録画などは、ICANN Webサイトの以下のページからご覧いただけます。

ICANN85 Mumbai Community Forum

<https://meetings.icann.org/en/meetings/icann85/>



● 第75回ICANN報告会

第85回ICANN会議での議論を紹介する報告会を、2026年4月23日（木）にオンラインにて開催いたしました。当日のプログラムは次の通りです。

1. ICANN85会議概要報告
2. 国コードドメイン名支持組織(ccNSO)関連報告
3. ICANN政府諮問委員会(GAC)報告
4. 理事会とASO(アドレス支持組織)を中心とした活動の報告
5. GNSO(分野別ドメイン名支持組織)レジストリ・レジストラ部会報告
6. 次期新gTLD申請手続きポリシー検討状況報告
7. コンテンツ側からみたICANN85の報告
8. 新gTLD申請開始に先立ってのパネルディスカッション

第75回ICANN報告会の資料と動画は次のURLで公開していますので、本稿と併せてぜひご覧ください。

第75回ICANN報告会

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20260423-ICANN/>



● 第86回ICANN会議

次回会合である第86回ICANN会議は、スペイン・セビリアで2026年6月8日（月）から11日（木）まで開催されました。このセビリア会議の内容は、次号94号でご紹介します。

ICANN86 Seville Policy Forum

<https://meetings.icann.org/en/meetings/icann86/>

